会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和4年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業（２）教職員の資質能力向上の推進②教職員研修プログラムの構築  |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回教員研修プログラム開発委員会 |
| 開催日時 | 令和4年9月29日（木）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル |
| 出席者 | 委 員 等：高岡　信吾、岡村　慎一、上里　政光、猪俣　昇、　　　　　植上　一希（OL）、佐藤　昭宏（OL）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計6名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　計１名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 1. 教員研修プログラム開発委員会（上里）

・この委員会は、当会が開発するICT活用研修プログラムと学習評価研修プログラムの開発進捗の管理や方針確認、また予算執行について調整を行うために設置しました。このため、タイミングを見計らって年間4回程度の委員会の開催を予定し、それぞれの開発状況の共有をいたします。よろしくお願いいたします。1. ICT活用研修プログラム開発ワーキング

・ICT活用WGは現状で2回の委員会を開催いたしました。・令和3年度までに開発した内容の改善と検証を行います。・具体的には、研修を４～５会場行うことを企画し、４会場は対面での研修、1会場はオンラインとして実施する予定としています。・研修の手順は、事前学習（ビデオ学習）から課題提出。対面研修は3時間程度で個人発表を通じての情報共有やチャレンジングな試みなどを共有します。また、アダプティブラーニングとしての勇気づけコミュニケーション等を学び、学習進捗が滞っている学生や理解の進まない学生のフォローアップをしていくこと等を学びます。事後学習としては、効果測定をするためのシートを通じ研修で得た内容が効果的に機能しているのかなどを検証するプログラムとなっています。・学習進捗が思わしくない学生の発見やそれをアダプティブに取り戻すというコンセプトは大変面白いものだと感じています。ぜひ頑張ってください。（高岡）・今回の感染症の影響などで、ICTの活用は重要度を増しています。この研修プログラムが良いものになり各校の教育の質向上に寄与することに期待します。1. 学習評価研修プログラム開発ワーキング（植上・佐藤）

・学習評価WGは2回開催しました。・私共は、非認知能力に焦点を当てた学習評価の知識・方法を獲得することを目的としています。具体的には、1. 専門学校教育の強みとしての非認知能力に着目する志向性を獲得すること
2. 人材像を非認知能力の観点で設定し教育課程に落とし込んで学習評価をする方法を獲得すること
3. 学生が無意図的に獲得する非認知能力を評価する方法を獲得すること

等を検討しています。・学習プログラムの構成は、　1時間目：非認知能力の観点で専門学校教育の強みを明確にする　2時間目：非認知能力を抽出・分類・構造化する　3時間目：教育活動のなかで非認知能力を育む　4時間目：学生個人の成長の評価を実践するとしています。・令和3年度に1時間目および2時間目を開発し、現在3校での検証を終え、改善等をしているところです。また、本プロジェクトの参画校以外にも富山情報ビジネス専門学校から研修依頼が来ており10月下旬に講師を派遣し研修を実施することとしています。・3時間目・4時間目を開発するためのアクションリサーチを暫時行っております。・後半部分に関しては11月中を目途に開発し、12月に3校程度で検証した後に完成版を作る予定としています。・教材完了した後に、このセミナーを担当する講師の指導書まで本年度中に実施する予定です。 |
| 配布資料 |  |

以上